

## 第3報 人づきあいについて

大阪樟蔭女大学芸 ○伊海公子

大阪城南女短大 (非) 喜多智子

大阪樟蔭女大学芸 一棟宏子

目的：本研究は、看護婦等を対象に、働く女性の家庭生活における問題点を考察し、生活環境改善に寄与しようとするものである。今回は、人づきあいの実態について報告する。

方法：家族・居住条件により対象を、単身居住者（423件）、未婚で家族と同居している者（348件）、既婚者（332件）の3グループに分類、生活実態と意識を分析する。

結果：1)血縁関係について、全般に「親子・兄弟など近親者」は大切に思い、そのつきあいは頻繁で、困ったとき買い物や使い走り、かたづけや掃除や洗濯、料理などに対する手助けや介護を頼みたいと信頼しているが、「その他の親戚」とのつきあいは用事の時だけ会うやほとんど会わないと消極的で手助けに対してもあまり期待していない。しかし、4割強の人は大切に思うと回答している。2)近隣などいわゆる「地縁関係」とのつきあいは概して消極的で、手助けへの期待も低い。しかし、既婚者では、他に比べると近隣とのつきあいや自治会への参加の機会は多くなる。3)友人づきあいについて、未婚者は既婚者に比べて積極的であり、大切に思う比率が高い。また、手助けに関しては、既婚者では買い物などの使い走りを頼む程度なのに対して、未婚者では料理や掃除等も加わっていた。4)余暇について、3グループとも、現在の余暇活動への参加者は2割前後と少なく、他の働く女性より厳しい勤務条件がうかがわれるが、7割が何かを始めることを考えている。